



# 日立システムズ



写真=村田 和聡

## 渡邊 岳彦 氏

日立システムズ  
代表取締役 取締役社長

渡邊 岳彦(わたなべ たけひこ)氏：1986年山口大学経済学部卒、日本ビジネスコンサルタント(現日立システムズ)入社。2018年日立システムズエンジニアリングサービス常務取締役、21年日立システムズ取締役常務執行役員CSO 兼 OPMO 兼 プロジェクトマネジメント統括推進本部長、23年取締役専務執行役員 公共・社会事業グループ長、25年より現職

## 「One Hitachi」支え持続的な成長へ

日立グループのデジタル戦略をけん引する存在として、「真のOne Hitachi」を支える。グループ共通のサステナビリティ戦略を実践し、環境・社会価値の創出と持続的な企業成長を目指す。

——日立グループのサステナビリティ戦略「PLEDGES (プレッジズ)」が目指す世界を教えてください。

渡邊 日立グループは、2025年に発表した経営計画「Inspire 2027」で環境・幸福・経済成長が調和する「ハーモナイズドソサエティ」の実現を目指しています。それに向けてグループのサステナビリティ戦略「PLEDGES」を策定し、7つの柱

(Planet, Leadership, Empowerment, Diverse perspectives, Governance, Engagement, Sustainability for all)としてまとめました。世界の日立グループ28万人の力を「真のOne Hitachi」として統合し、人々と地球に価値を提供していきます。——**その中で、日立システムズが目指すのはどのような姿ですか。**

渡邊 「お客様のサプライチェー

ンを強化するマネージドサービスサプライヤーとして、安心・安全でサステナブルな社会の実現に取り組む」ことです。全国の保守拠点やデータセンター、自治体向けシステムなどのサービスインフラを生かし公共、金融、産業、流通など全業種向けにシステム構築から保守運用まで支援しています。こうしたマネージドサービスにIT、DX、人工知能(AI)

### ■ 日立グループ経営計画「Inspire 2027」の目指す姿



日立グループ28万人の力を「真のOne Hitachi」として統合し、環境・幸福・経済成長が調和する「ハーモナイズドソサエティ」の実現に貢献する 出所：日立製作所

を組み合わせ社会価値と企業価値が両立するハーモナイズドソサエティの実現に貢献します。

### 人材のKPI、25年度に急上昇

——「7つの柱」それぞれに独自の目標やKPI(重要業績評価指標)を策定しています。特に注力する人材分野の現状について教えてください。

渡邊 Leadershipの項目の「従業員成長マインドセットスコア」、Empowermentの項目の「従業員エンゲージメントスコア」の目標は27年度までに70ポイントです。

全世界の日立グループ社員が対象の意識調査として毎年実施しているもので、当社の成長マインドセットスコアは21年度の58.3ポイントから25年度は65.3ポイントに上昇しました。エンゲージメントスコアは21年度が61.9ポイントで、25年度には71.7ポイントまで高まりました。既に目標を上回った指標もあり上方修正が必要な状況です。両指標とも日立国内グループの平均を超える水準に達しています。

——25年度にポイントが大きく上昇

しています。

渡邊 25年4月に就任した日立製作所の徳永俊昭社長の積極的なメッセージ発信に加え、同時期に新社長となった私も全国13拠点で方針を丁寧に説明したことが寄与したのではないかと考えています。

説明会で強調したのは当社の役割です。日立グループのデジタルシステム&サービス(DSS)セクターの一員として、コネクティブインダストリーズやエナジー、モビリティなどのセクターを支えています。25年より日立グループの国内データセンター事業が当社に集約されたこともあり、より重要な立ち位置となりました。保守運用の業務でも、AI活用で極めて幅広い分野をカバーできるようになり、それを契機に日立グループの中核的な事業と深い関わりを持つようになってきました。受変電設備や建物を構成する各種のシステムなど幅広い分野において、AI技術の活用により我々のサポート範囲を広げることができます。つまり、当社は「真のOne Hitachi」の中核を担う存在なんだということ

を従業員に伝えました。そうしたマインドチェンジがスコアアップにつながったのではないのでしょうか。

——データセンターでの再エネ適用率100%を掲げています。

渡邊 電力会社の再エネメニューへの切り替えや太陽光発電の導入に加え、非化石証書の調達を通じて目標達成を図ります。また、ビルマネジメントシステムを活用し、稼働状況の可視化・最適化による省エネ提案や、CO<sub>2</sub>排出量が抑えられるコンテナ型データセンターの展開などに取り組んでいます。

——AI活用の注意点は、

渡邊 AIシフトが急速に進む中、AI関連の製品やサービスをまず自社で使用し、品質を向上させてから顧客に提供する「カスタマーゼロ」を徹底します。同時に注意すべきは、AI導入が従業員のマインドセットやエンゲージメントのスコアに与える影響です。効率化を実感する人もいれば、仕事を奪われたと感じる人もいるでしょう。AIの浸透とスコアの関係性を注視しながら全体としての企業成長につなげていきます。